

再評価調査

事業名	石川河川公園整備事業			
所在地	富田林市喜志町 他、羽曳野市古市 他、河南町大字一須賀 他 藤井寺市道明寺 他、柏原市円明町 他			
再評価理由	事業採択後10年を経過した時点で継続中			
事業概要	目的	石川河川公園は、南河内地域を流れる一級河川石川の河川敷を利用し、周辺住民の散歩道や交流・憩いの場、南河内の歴史と風土を遊びながら学べる場、バードウォッチングなどの自然観察や環境学習の場、ジョギングや球技などのスポーツの場など幅広い機能を備えた広域公園として、また都市周辺の自然環境を保全する重要な水と緑のオープンスペースとして整備する。		
	内容	・都市計画決定面積 172.6ha ・開設面積 26.0ha (H14.3末) (事業認可面積 85.3ha) 富田林市(西行うたのみち・千早つどいの広場・千早花街道地区) 羽曳野市(あすか花回廊・あすか歴史の里地区) 柏原市(玉出橋であいの岸地区) 河南町(芝生広場) 藤井寺市(玉出橋であいの岸地区・星の広場)		
	事業費	全体事業費 計画約259.0億円(認可約152.9億円) 投資事業費約83.7億円 内用地費 計画約86.1億円(認可約64.1億円) 内用地費約57.4億円 内工事費 計画約172.9億円(認可約88.8億円) 内工事費約26.3億円		
	維持管理費	約98百万円/年 (約380円/㎡・年)		
	上位計画	・大阪府公園基本構想 ・石川あすかプラン(石川環境整備計画) ・大阪府広域緑地計画 ・大阪府都市基盤整備中期計画(案)		
	関連事業	・石川環境整備事業 ・南河内サイクルライン(事業完了)		
事業の進捗状況	経過	計画時の想定 事業採択年度 H4 事業着手年度 H4 完成予定年度 -	現時点での状況 - 事業着手年度 H4 完成予定年度 計画 - (認可H17)	分析 整備の都度段階的に供用 H14 開設予定 3.8ha
	進捗状況	用地 - % 工事 - %	用地 計画67%(認可90%) [面積割合 計画99%・認可100%] 工事 計画15%(認可30%) [面積割合 計画17%・認可35%]	
	途中段階の整備効果発現状況	・平成13年度末開設区域26.0ha 開設率 計画15%(認可30%) ・年間来園者数約20万人 ・府民協働による「環境ふれあいワークショップ」実施(H10~13) 49回 運営をNPOへ委託(ボランティアリーダー育成含む)実施予定(H14)13回		
	事業進捗に関する課題	・特になし		

事業を巡る社会情勢の変化	事業目的に関する諸状況	計画時の想定	現時点での状況	分析
		大阪府緑のマスタープラン(S59.3)において五大放射緑地(河川臨海部)一環状緑地(三山系)からなる基本緑地軸のひとつとして石川河川公園を位置付けている。 (H4年:大阪府内) 都市公園開設面積 4.54㎡/人 内府営公園開設面積 0.76㎡/人	大阪府広域緑地計画(H11.3)において五大水辺空間、周辺三山系及び市街地の中央部を結ぶ中央環状緑地群で構成されるみどりのネットワークの骨格のひとつとして石川河川公園を位置付けている。 (H13年度末:大阪府内) 都市公園開設面積 5.49㎡/人 内府営公園開設面積 0.96㎡/人	社会情勢の変化なし
地元等の協力体制		住民を主体としたボランティア組織の結成	石川河川公園の中流域にある自然ゾーンにおいて、平成10年度より府民との協働で自然環境の回復や絶滅の危機にあるミヅウヅの保全などを行いながら公園の整備や管理手法を考えていく「環境ふれあいワークショップ」を実施している。	計画どおり実施
		計画決定時は4市1町の協力により都市計画決定が行われた。	富田林市・羽曳野市から事業推進の要望が出されており協力的である。	

		計画時の想定		現時点での状況（変更点）		分析
				備 考		
事業効果の定量的分析	費用便益分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ B / C = 便益総額 B = 億円 ・ 総費用 C = 億円 <p>計画時点では費用便益分析の手法が確立されておらず、算出できず。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な便益内容 ・ 公園直接利用便益 ・ 公園間接利用便益 都市防災機能 都市環境の維持・改善 受益者 公園利用者 算出根拠 国土交通省都市地域整備局公園緑地課監修 「大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」による 	<ul style="list-style-type: none"> ・ B / C = 1.22 便益総額 B = 261.4億円 総費用 C = 213.6億円 		
	その他の指標（代替指標）		<ul style="list-style-type: none"> ・ 指標の注釈 			
事業効果の定性的分析	安全・安心	<p>河川を公園整備することにより、高水敷利用の安全性が向上する。さらに、自然環境を保全・創出することで市街地に風の道が生まれ都市全体の大気浄化やヒートアイランド現象の緩和など都市生活者にとって安全・安心につながる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受益者など 地域住民 府民 	変更点特になし	<p>平成13年度</p> <p>公園利用実態調査実施結果</p> <p>利用目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 散歩、ウォーキング 66% ・ スポーツ 11% ・ バーベキュー 11% <p>公園の印象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 景色が良い 30% ・ 散歩がしやすい 27% ・ 水辺に近寄れる 15% <p>という結果であった。</p>	<p>当初予定どおりの効果が発揮されている。</p>
	活力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人の活力 公園の延長 11.6km の距離や多目的広場などを活かして個人の体力に応じた運動が可能であり病気の予防や心身を鍛えることができる。 ・ 地域の活力 多目的広場などの施設整備により、祭りや花火大会など地域住民のコミュニティ活動が活性化される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受益者など 地域住民 府民 	<p>「環境ふれあいワークショップ（参加者は小学生から高齢者）」の実施により、府民との協働による公園づくりの実践で、府民や地域住民の自己実現や社会参加などの活性化が図られている。</p>		
	快適性	<p>川本来の自然の仕組みを生かすことにより、様々な水生昆虫や植物と出合えたり、川のさざなみを感じながらゆったり・のんびり過ごせるなど、精神的にリフレッシュできる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受益者など 地域住民 府民 	変更点特になし		
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史、文化性 河内飛鳥や竹内街道など、歴史や文化に恵まれた南河内の中心部を貫流する石川を公園整備手法において周辺の歴史遺産と一体化することにより、風土性豊かな地域のシンボルとなる。 ・ レクリエーション機能 散歩やサイクリング、多目的広場を利用した球技や市民運動会などのレクリエーションに加え、河川空間を活用した魚釣り、干潟やわんどでの水遊びや自然観察などのレクリエーションの場となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受益者など 地域住民 府民 	変更点特になし		
自然環境等への影響と対策	<p>河川の治水・利水機能に加え、自然とふれあえる水と緑のオープンスペースとして積極的な創出を図る。</p> <p>大きな河川断面を持つ石川の中流域にある自然ゾーンにおいて、湿地や水辺等の保全・復元を図り、水生生物や野鳥の生息の場として、自然環境のより一層の向上を図る。</p>		変更点特になし	<p>自然豊かな石川本来の河原風景の保全・創出を目指して、行政・地域住民・市民団体・学識者・専門家等の様々な分野の人々が協力しながら希少植物（ミコヅク）の保全など自然を守り育て、次代に残していくためにワークショップ方式による様々な活動を行う組織が確立された。</p>		
その他特記すべき事項						